

新時代のGUIが、ここから始まる。

# VIVID UI<sup>®</sup> SOLUTIONS

アクロディアのUIソリューションは、UIコンテンツ制作や直感的な操作感の演出、オリジナリティの高い統一されたUI演出等、いかなる目的・用途にも効率的に応えることができる、新たなGUI創出にパワーを発揮するミドルウェアです。



VIVID  
UI<sup>®</sup>



VIVID UI  
Suite<sup>®</sup>



VIVID UI<sup>®</sup>  
Neo



VIVID UI<sup>®</sup>  
Builder



VIVID UI<sup>®</sup>  
Effect Framework



VIVID UI<sup>®</sup>  
Plus



VIVID  
Movie



# VIVID UI® ソリューション



## ケータイUIのデファクトスタンダード、 そして次世代へ

携帯電話のメニューをユーザーが自由にきせかえられる「きせかえコンテンツ」。アクロディアの「VIVID UI」は、このサービスのベースとして採用され日本の携帯電話のデファクトスタンダードになっています。



アクロディアUIソリューションの起点。“誰でも楽しく使いやすい”を実現

「VIVID UI」は、従来ほとんどがエンジニアの作業であったUI（ユーザーインターフェース）を、エンジンで動作するコンテンツとしてアプリケーションから分離し、UIをデザイナーの領域に開放しました。これにより、UI作成の期間とコストが削減されるだけでなく、よりデザイン性の高いUIの作成が可能になりました。さらに、ムービーや3D等にも対応、表現力豊かな魅力的なUIを実現します。携帯電話だけでなく、デジタルカメラやポータブルナビゲーションデバイス（PND）等、他のポータブルデバイスにもご利用頂けます。「きせかえサービス」のベースとして採用される等、携帯電話を中心に多数の採用実績をもつ、日本の携帯電話UIエンジンのデファクトスタンダードです。

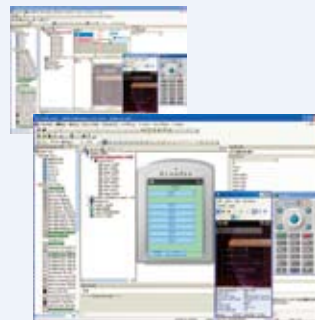
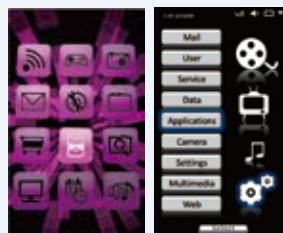
### UIの表示要素や振る舞いを完全にコンテンツとして表現するアーキテクチャー

#### ● 高度なUIが実現可能なエンジン

- デバイ스에組み込まれ、UIコンテンツを解釈、実行
- 2D、3D、ムービー、Flash等をサポート、組合せて表現、新しいメディアへも拡張可能
- ソフトウェアレンダリングと、OpenGL ES、OpenVGによるハードウェアレンダリングをサポート
- キー、タッチパネル等の各種入力デバイスをサポート

#### ● デザイナーがUIコンテンツを作成できる統合開発環境を提供

- デザイナーが直感的にUIを作成できるGUIツール
- 作成したUIコンテンツを端末上と同様に動作するエミュレーターで確認可能。プロファイル機能で、端末毎の細かい差異もエミュレート
- UI作成をプロジェクトとして管理し、ワンクリックでUIパッケージを生成するビルド機能



ワークショップ



VIVID UIに、VIVID UI Neoの持つ機能をプラス

「VIVID UI Plus」は、次世代のUIエンジンである「VIVID UI Neo」の特徴的な機能を「VIVID UI」に追加したものです。「VIVID UI Neo」の持つ最先端のGUI表現が利用できると同時に、既存のコンテンツ資産も引き継ぐことができます。

- VIVID UI Plusで追加される機能 「2.5Dシーングラフ」「コントローラー」「パッケージ」「スクリプト制御」



“高レベルなユーザーエクスペリエンスを実現”

近年、スマートフォンの増加に伴い、タッチパネル等の新しい入力デバイスなどを用いた統一感のあるUIのニーズが高まっています。このニーズに応えるため、「VIVID UI」エンジンをコアに、タッチ操作に対応する「タッチモジュール」、気持ち良い操作感を実現する「アクションモジュール」、ウィジェットを制御する「ウィジェットマネージャー」等を追加し、端末上のメニュー、アプリケーション、ウィジェットに至るまで統一された操作感とイメージでインターフェースが作成できるフレームワークが「VIVID UI Suite」です。コアエンジンは次世代のエンジンである「VIVID UI Neo」にも対応し、最新のデバイスに対応できます。



●アクションモジュール ●マルチプレイヤー環境 ●タッチモジュール ●ウィジェットマネージャー

**VIVID UI**

- エンジン
- コンバーター
- ワークショップ

**VIVID UI Plus**

- エンジン
- コンバーター
- ワークショップ

**VIVID UI Neo**

- エンジン
- コンバーター
- レイアウトマネージャー
- フォーカスマネージャー
- データソースマネージャー

2.5Dシーングラフ  
・コントローラー  
・パッケージ  
・スクリプト制御



**VIVID UI Neo**

## 進化し続ける時代のニーズに応えるVIVID UIの次世代版

「VIVID UI」のコンセプトを踏襲し、最新のGPUや2.5Dシーングラフ等に対応した次世代版「VIVID UI」。よりリッチで複雑な表現を容易に作成することが可能になります。

### ● 2.5Dシーングラフ

- 3DやFlash等で実現していた複雑なアニメーションを、独自にサポート
- ターゲット等による描画効率の最適化
- 階層化された座標変換の定義で、表示要素の部品化を促進

### ● コントローラー

- シーングラフ中の表示要素の位置、色等、各種パラメータを制御
- 多様なコントローラーを自由に組み合わせることができ、複雑なアニメーションを容易に実現

### ● パッケージ

- 表示要素・アニメーションを部品化し、再利用が可能

### ● スクリプトによる制御

- シーングラフやパッケージをスクリプトから動的に生成、細かく制御可能

### ● レイアウトマネージャー

- 画面サイズや端末の縦横の変更等に応じた自動レイアウトをサポート

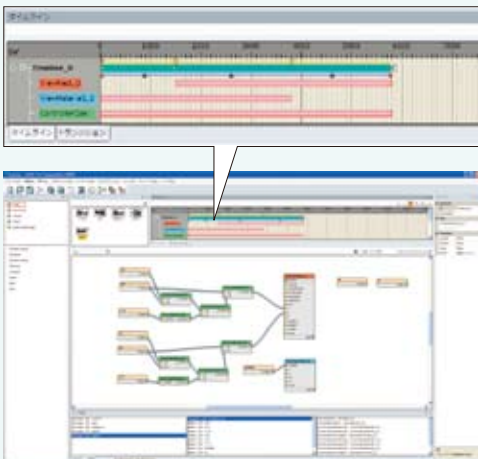
### ● フォーカスマネージャー

- 拡張可能なフォーカスマネージャー

### ● データソースマネージャー

- データフォルダの一覧表示等、動的なデータとUIの連携を容易に実現

#### 【開発ツール例】



#### 【VIVID UI Neoの様々なグラフィック表現】



アイコンが水面でバウンドし、七色のグラデーションで背景が変化



カバーフロー



RSS Viewer

### ● 統一された操作感

様々なUIアクションを集約した「アクションモジュール」とタッチパネル上のジェスチャーを認識する「タッチモジュール」を用意。これによりUI制作者はUIと用意されたアクションをひもつけるだけで、一貫した操作性のUIを簡単に作成する事が可能になります。

### ● 高度なグラフィック

OpenGL® ES 1.1、OpenVG™ に対応し、グラフィックスハードウェアを駆使する高度なグラフィック表現を実現します。

### ● 端末の全階層のUI作成に対応できるアーキテクチャー

「アクションモジュール」「タッチモジュール」だけでなく、ウィンドウの上に別のウィンドウを重ねて表示できるマルチプレイヤー環境への対応、加えて「ウィジェットマネージャー」を準備したことにより、端末の表層的なメニューだけではなく、深い階層やウィジェット、ポップアップメニューに至るまで全て「VIVID UI Suite」で作成できるフレームワークが整いました。ユーザーの目に触れる部分を全て、統一感があり一貫した操作性のUIにする事が可能となります。

### ● スマートフォンUIの差別化に最適

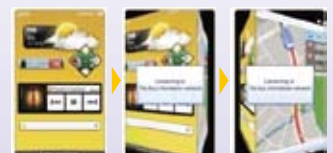
最近増えてきたオープンOSを搭載したスマートフォンは、比較的容易に端末の開発ができるという利点があるものの、メーカーが差別化することが難しいものになっています。「VIVID UI Suite」フレームワークを使えば、簡単にオープンOS上に統一的なUI構造を構築する事が可能です。これによりオープンOS上でもメーカー独自のUIを容易に展開できます。

#### 【ウィジェット使用例】



ウィジェットアイコンを待受画面へドラッグ

#### 【UI遷移例】 UIをキューブ状に表示



## VIVID UIの表現力をより豊かに拡張するオプション製品

### VIVID UI® Builder

#### ドラッグ&ドロップで、アプリケーションのUIをデザイン・作成

「VIVID UI Builder」は、UI部品をドラッグ&ドロップするだけでアプリケーションのUIをデザイン・作成できるツールです。作成したUIファイルをアプリケーション側で指定するだけで動作します。趣味でアプリケーション等を作成したいサンデープログラマーでも、素材を用意するだけで簡単にUIを作成できます。

- UI部品を選択、サイズやレイアウトを任意に変更する等、マウス操作で簡単にUIを作成
- 直感的な気持ちのよい操作感を実現できるカバーフローやリスト等、豊富に用意されたUI部品やレイアウト、エフェクト
- UI部品やレイアウト、エフェクト等は、追加することも可能
- UIとアプリケーションとの複雑なつなぎこみが不要



### VIVID UI® Effect Framework

#### 高速描画と画面遷移エフェクトをもっと容易に

端末の高機能化に伴い、メニューからメニュー、メニューからアプリケーション、画像の閲覧等、様々な場面で見せ方の工夫が求められています。「VIVID UI Effect Framework」はこのニーズに応えるため「VIVID UI」のオプション機能として開発されました。従来難しかったメニューからアプリケーションへの画面遷移やデータボックス内の画像のエフェクト等、VIVID UIで表示されている画面であれば効果を指定するだけで簡単に効果的な画面遷移を利用することができます。



### VIVID Movie

#### 高速かつ軽量の再生を行う動画コーデック

「VIVID Movie」は、省電力CPU用に設計された高速かつ軽量の再生を行う動画コーデックソフトウェアです。負荷が高く使い勝手の悪かった従来の動画再生機能とは異なり、「VIVID Movie」は携帯電話端末上でDVDクオリティの動画再生を提供します。「VIVID UI」と高い親和性を持っています。

#### 【VIVID UIソリューション 採用例】

NTTドコモ「きせかえツール」：「VIVID UI」「VIVID Movie」「VIVID UI Effect Framework」

KDDI「ナカチェン」：「VIVID UI」「VIVID Movie」

ソフトバンクモバイル「きせかえアレンジ」：「VIVID UI」「VIVID Movie」

携帯電話端末 グローバルメーカー：「VIVID UI」「VIVID UI Suite」「VIVID Movie」

その他デジタルカメラ、ポータブルナビゲーションデバイス：「VIVID UI」

※「VIVID Movie」は株式会社アクロディアとシリコンスタジオ株式会社が共同開発したソリューションです。  
※「VIVID UI」「VIVID UI Suite」はアクロディアの登録商標です。  
※その他、記載されている会社名、製品名などは、各社の登録商標または商標です。  
※各実装端末により、仕様は異なることがあります。